

**【教育実践論文(ソニー子ども科学教育プログラム) 審査講評】**  
**2020年度 最優秀校**  
**国立大学法人千葉大学教育学部附属小学校**

「科学が好きな子を育てる」ために先進的で提案性のある実践に取り組み、附属小としての役割を果たされています。

「科学が好きな子ども」像を「不思議を納得するまで追究し続ける子」と単純化し、子どもたちの科学への探究心を大切にしたい研究構想の3つの柱が、実践論文の中で子どもの姿を通して具体的に分かり易く記述されていました。

取り組みの中心となる柱①の実践は、子どもがこれまでの授業の中で抱いている不思議を追究させるための工夫をし、子どもたちが抱く「不思議」を授業化して追究するという斬新な発想で計画された発展学習を、子どもたち自身が主体的に実験・思考を行って解決していく優れた授業実践です。どの授業も、問題の発見、実験観察、課題の共有、対話、既習事項の活用、実際生活との結びつきなど多様な観点に留意し、各単元の本質を理解した優れた授業構成であり、単なる知識・理解にとどまらない授業となっています。

柱②では、月1回の理科だよりの発行、理科新聞の掲示、動画配信と応答などの「情報配信」も、子どもたちの「不思議」を誘発し、発見・追究させるという明確なねらいの下に行われており、環境整備にも努めています。

また、休校等に対応した家庭でのオンライン授業による新しい学びの形への挑戦も優れた実践であり、先進的で提案性がある内容です。